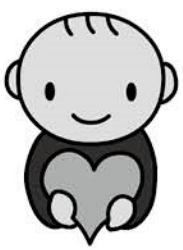
こ・こ・ら・ぼ
～こころのコラボレーション～



スクールサポーター
（臨床心理士）
小林　真理

共に感じること

8月3日から5日までの3日間、軽井沢町児童・生徒大槌町派遣研修事業の引率者として、岩手県大槌町に行く機会をいただきました。大槌町は2011年3月11日の三陸沖を震源地とする大地震、「東日本大震災」の大津波で町の大半が流され、7割の家屋が倒壊した地域です。町の機能はマヒし、家族や親せき、或いはクラスの仲間や地域の人など、10人いればそのうちの1～2人が亡くなったり、行方不明になるほどの大きな被害を受けた町です。

軽井沢町の小中学生は大槌町の小中学生との交流や、資源回収を通して復興支援を行うなど、4年半に渡り「今、自分たちができること」を行い、つながりを大切にしてきました。もちろん、大槌町へ思いを寄せる大人の協力もあって実現・継続ができていることではありません。

大槌町の伊藤教育長は、「震災の後の絶望の時に、最初に動きだしたのは子ども達だった」という印象的な言葉から当時のことを語ってくださいました。

避難している中で、子どもが動き出すことによって始まるやりとりや、被災後に到着した自衛隊やボランティアとの関わりなど、**日常生活の中では当たり前すぎて見過ごしがちな「人とのやりとり」が、その時の大人の希望や原動力になった、ということでした。そんな子ども達も同じように被災し、深い心の痛みを経験しているのです。**

今回の研修は、軽井沢町の児童生徒の代表が、大槌町の現状を知り、自分たちの支援を振り返る機会とし、「今、自分たちに何ができるのか」を五感で感じ、それを伝えて行くことで震災を忘れない、風化させないという意識をより高めるためのものでした。

私自身がこの研修で実感したことは**「共感＝共に感じる」ことからつながりが生まれる、ということ**でした。

住宅地があったであろう手つかずの空き地や、盛り土とトラックが縦横無尽に走り回る現状を実際に見たり、被災当時の話を聞いていると心が痛みました。子ども達の表情も、同じように心に痛みを感じているようでした。大槌学園（被災後の小中一貫校）との交流で、子ども達同士の心が通じた時のキラキラした表情の場にいると、大人も心が暖かくなるようでした。いずれも「今を共に感じている」そのものでした。

今、大槌町の方達が求めているのは「つながり」で、現状を知って共に感じてほしいということです。

大槌町復興のプロセスを共に感じていきたい、こう感じることが、つながりなのだな、と感じました。一人ではないことで強くなれることもあるのですね。

大槌学園仮設校舎での交流会

植物園だより

季節の植物 ～フジバカマ～

本州、四国、九州の川沿い等に生育する多年草です。淡い紅紫色の花は、今月中から下旬に見頃を迎え、時折アサギマダラ（蝶）の姿も見られます。

植物観察会のお知らせ①
～ショウマをさがそう～

とき　9月13日(日)
10時30分から
12時まで

講師　植物園園長

定員　20名

内容　名前にショウマとつく植物や、見頃の植物について紹介します。

サラシナショウマ

植物観察会のお知らせ②
～アサマフウロをさがそう～

とき　9月27日(日)
10時30分から
12時まで

講師　植物園園長

定員　20名

内容　アサマフウロや、ヒメマツカサススキ等、地域にゆかりのある植物や、見頃の植物について紹介します。

アサマフウロ

参加料　入園料のみ
小学生以上
1人1回100円
（展示館入館料含む）

＊申し込み不要
＊天候状況等により時間の短縮や観察会を中止にする場合があります。

【問い合わせ】
植物園　☎48-3337

企画展　「堀辰雄と周辺の文学者たち」
11月30日(月)まで開催中